

高解像度の画像診断機器・MDCTの登場で、 カテーテル検査をする必要がなくなりました



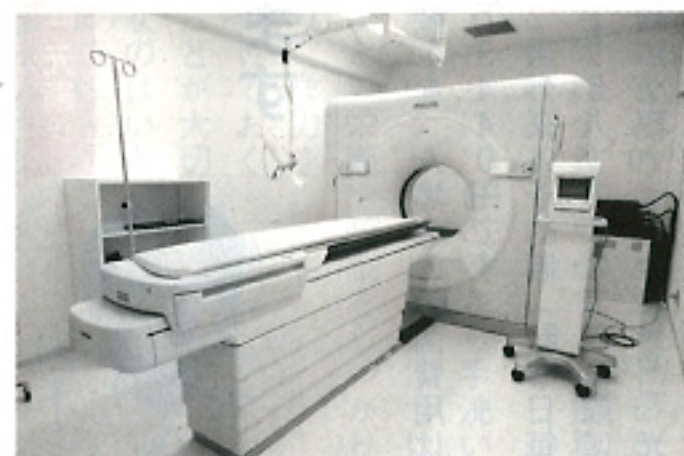
これまで、心臓をとりまく冠動脈で血管が詰まっているかどうかの病態を把握するためには、カテーテル検査をして診断をつけないければならないのが現状でした。心臓の血管を撮影するために、手や足の動脈から心臓の血管までカテーテルという細い管を通し、直接、造影剤を流し込むという方法で検査は行われます。年々、検査の安全性は高まっていますが、体に対して、まったく負担や合併症がないわけではありません。

しかし近年、MDCT（64列マルチスライスCT）という画期的な画像診断技術が開発され、心臓のどこに狭窄があるかを立体的に鮮明にみるのが可能となりました。造影剤は手の静脈から注入するので危険性は少ないといわれています。また検査時間も15分ほどで、早ければ1時間程度で、その日のうちに検査結果を知ることができます。当クリニックでは、検査のためだけにカテーテルを使うことは、患者さんにとってリスクが

高いとの判断から、検査後にそのままカテーテルによる治療を行う必要がない場合は、カテーテル検査を実施していません。従来の検査方法では、まず確定診断のためにカテーテル検査を行い、狭窄などが見つかったら治療のためにカテーテルを使い、再発の恐れがないかどうかで、半年後、1年後にまた検査を行うなど、最低でも年4回カテーテルを実施していたわけです。それだけ患者さんの負担が多かったといえます。

動脈硬化による狭窄の狭心症では約9割の患者さんでMDCTによる確定診断ができます。そこで治療が必要と判断したときに初めてカテーテル治療を行います。カテーテル治療は、カテーテルの先端に付けた風船を使って、狭くなったり、詰まっている動脈を広げる方法と、ステントと呼ばれる網目構造をした血管の鑄型を入れる方法など、病変に応じて使い分けられています。

患者さんの話を聞けば狭心症かどうか、だいたいの判断がつくはずです。心不全ならばエコー検査だけで十分把握できます。ただ、冠動脈れんじゆく性狭心症などでは、カテーテル検査が必要といえます。専門医師には迅速な判断とともに、的確な画像解析能力が問われるわけです。いずれにしても、突然死や血管障害の予防には早期発見と早期治療が欠かせません。40代を過ぎたならば専門的な検査を受診していただきたいと思えます。



冠動脈疾患の診断に威力を発揮するMDCT

3 狭心症などの冠動脈疾患では、 カテーテル検査は必ず必要ですか？

札幌心臓血管クリニック 患者負担を軽減した検査を実施 24時間対応する心臓疾患専門クリニック

高度心臓血管治療専門施設（ハートセンター）として2008年4月に開設した札幌心臓血管クリニックは、特に急性心筋梗塞や狭心症、心不全、高血圧、不整脈などの心臓疾患をはじめ、下肢動脈（A.S.Oなど）精密検査・治療を行う医療機関として、高い専門的医療を提供している。藤田勉理事長は札幌東徳洲会病院循環器センター長・院長代行を長らく務め、心臓カテーテル治療実績においては常に道内トップに位置し、全国でも有数の症例数を誇る。迅速な診断と治療には定評があり、「心臓の病気で苦しむ人を1人でも多く救いたい」との考えから、24時間体制で心臓疾患救急の受付も実施している。

そして最大の特徴は、道内では初めてともいわれる「心臓カテーテル検査のいらない診療」を実践していることだ。通常、心臓の血管を撮影して診断するためには、手や足の動脈から心臓の血管までカテーテルを通し、

直接造影剤を流す検査方法が一般的といわれた。同クリニックでは国内でも導入が少ないMDCT（64列マルチスライスCT）という最新鋭の検査機器を導入。この検査機器は高解像度のCT装置であり、カテーテル検査を行わなくても確定診断を下すことが可能となった。検査時間は約15分ほどですみ、最短2時間で検査結果がわかる。

「冠動脈疾患では9割以上の患者さんでMDCTにより確定診断ができます。確認のためのカテーテル検査は不要と考えています。カテーテルは治療の時の



地下鉄東豊線栄町駅2番出口徒歩約12分。駐車場完備



冠動脈疾患の診断に威力を発揮するMDCT



心臓カテーテル治療。開設1年で約1000例を実施

みという姿勢を徹底し、患者さんの身体的、経済的な負担の軽減に結びつくよう努めています」と、藤田理事長は話す。開設から1年で約1000例を実施し

た。このほか、超音波診断装置（エコー）やアンギオ装置など、先進医療を提供する高いレベルの治療設備・検査技術を整えている。MDCTやエコー検査などを駆使した「心臓血管ドック」を開設し、「自覚症状が少なく心臓や血管の異常をいち早く発見し、予防したい」という強い信念から低価格で実施している。

院内は木のぬくもりを取り入れ明るくゆったりとした環境を整えている。病床は個室と2人部屋19床を有し、手厚い看護や食事内容も好評だ。藤田理事長をはじめ専門医師やスタッフによる院内健康講座や近隣地区での講演活動も行い、心臓循環器疾患に対する啓蒙活動も積極的に実施している。

また千歳市の北星病院、苫小牧日翔病院、北見市の北星脳神経外科病院、網走市のこが病院、倶知安厚生病院に同クリニックの医師が診療に向いている。



理事長 藤田 勉氏

1986年旭川医科大学卒業。札幌徳洲会病院、国立循環器センター、札幌東徳洲会病院院長代行兼循環器センター長を経て、2008年4月札幌心臓血管クリニックを開設。日本心臓血管インターベンション学会指導医。日本心臓血管カテーテル治療学会指導医。日本循環器学会専門医。日本内科学会認定内科専門医。日本救急学会専門医。日本医師会認定産業医

- 札幌市東区北49条東16丁目8-1
- TEL.011-784-7847
- 理事長 藤田 勉
- 院長 藤山博昭
- 診療科目 内科・循環器内科・心臓内科

- 診療時間 月・火・木・金 9:00~12:00 13:30~17:00
水・土 9:00~12:00
※不整脈専門外来 第4土曜日 9:00~12:00
※心臓疾患救急は24時間受付
- 休診日 日曜・祝日
- <http://www.scvc.jp>